

◇このアセスメントキットを用いる目的 (見るポイント)

* 検査前に被検者に伝える必要はありません。

1. 組み立て

作業スピード

・ 速度 (タイムがどのくらいか、平均とどのくらい差があるか)

☆速度に関係することとして、作業の様子から評価

- ・ 手指の巧緻性 (器用/不器用)
- ・ 目と手の協応 (見た情報に手先が対応できているか)
- ・ 力加減 (強い/弱い)

指示の理解

- ・ 指示された通りのことができるか
- ・ 1度の口頭説明だけで理解できるか
- ・ どのような説明が理解しやすいか

2. 解体・分別

1のポイントに加え、

課題解決の方法

- ・ 効率を考えて自分で手順を組み立てるのか
(全部外してからまとめてケースに戻す、など)
- ・ 一つずつ確実に外して戻すのか
- ・ やり方を検査者に相談するのか など

3. 3回行う中での変化

タイムが速くなる/遅くなる、ミスが増える/減る など

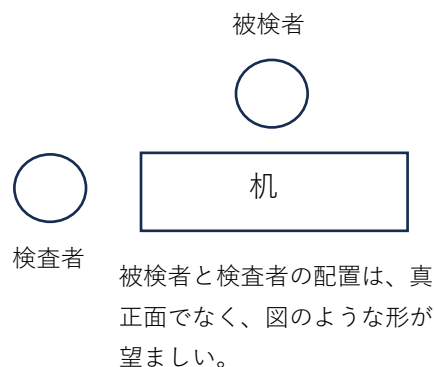
◇実施の手順

検査環境

- ・ 静かな個室
- ・ その部屋の机の高さによって立位・座位を始めから決めておく。

* 部屋の用意については各事業所がそれぞれの事情で判断する。

* やむを得ず、検査途中で本人から「立ちたい/座りたい」といった相談があった場合は対応する。



組み立て、解体・分別 実施中に追加教示が必要となる場合

①組み立ての最中、見た目に明らかなゆりみを発見した場合

時間の計測は止めずに「最後までしめて下さい」と伝える。

しめ終わってから次のボルトを行ってもらう。

②組み立ての最中、ワッシャーを無視してナットだけをしめた場合

時間の計測は止めずに「ワッシャーを通してからしめて下さい」と伝える。

正確にできてから次のボルトを行ってもらう。

③落とした場合

時間の計測は止めずに、本人か検査者が拾って続けてもらう。

「あまり落とさないようにね（時間のロスになるので）」と伝えておく。

④各ケースに入れていない場合

練習問題できちんと指定のケースに入れることが確認できた後は、どのタイミングで

各ケースに入れても自由だが、全部入れるまで時間の計測は続ける。

20個終わっても本人がケースに入れない時は「ここに入れて下さい」と伝える。

1. 組み立て *原則、検査を開始したら最後まで休憩や自由会話を挟まず行う

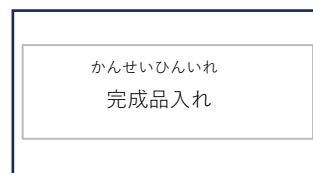
準備

最初に、ボルト、ワッシャー、ナットをそれぞれ20個ケースに入れた状態で

机に並べて置いておく。



完成品入れを本人の前に置く。



教示

- ①「今から、ボルト（現物を見せる）、ワッシャー（現物を見せる）ナット（現物を見せる）を使います。」

「カゴの並べ方は自分で変えてもらって良いです

（右利きの人がやりやすい配置になっているので）。」

段階1 口頭説明 のみ	②「では、ボルトにワッシャーを通してナットで最後までしめます。 できたものはここに入れて下さい。練習で一つやってみてください。」 自分で一つできれば検査者がばらして戻し③にすすむ。
段階2 モデリング	②'「練習で一つやってみてください」と伝えても「どういうこと ですか？」と食い下がられてそれ以上進まなかったり、うまく できない様子があれば、検査者が一つ実際にやって見せる。その後 本人に一度練習してもらおう。 できれば検査者がばらして戻し③にすすむ。

段階3
手添え

②”できなければ手添えで説明を行い、本人が一つ作成できるか
試す。できれば検査者がばらして戻し③にすすむ。
本人が一つも作成できなければこの検査は打ち切り。

③「では、この全部をできるだけ早く作って下さい。

できたら教えて下さい。始めて下さい」時間計測を開始する。

☆10分経っても終わらなければ検査は打ち切る。

2. 解体・分別

教示

段階1 口頭説明 のみ	①「今度は、今作ったものを外して元の場所に片付けて下さい。 練習で一つやってみてください。」 自分で一つできれば検査者がもう一度しめて戻し③にすすむ。
段階2 モデリン グ	②'「練習で一つやってみてください」と伝えても「どういうこと ですか？」と食い下がられてそれ以上進まなかったり、うまく できない様子があれば、検査者が一つ実際にやって見せる。その後 本人に一度練習してもらおう。 できれば検査者がもう一度しめて本人の前に戻し③にすすむ。
段階3 手添え	②”できなければ手添えで説明を行い、本人ができるか試す。 できれば検査者がもう一度しめて本人の前に戻し③にすすむ。 できなければこの検査は打ち切る。

③「では、この全部をできるだけ早くやっして下さい。

できたら教えて下さい。始めて下さい」時間計測を開始する。

☆10分経っても終わらなければ検査は打ち切る。

3. 組み立て（2回目）

準備

ケースの中身が間違っていないことを再度確認する。



教示

「ではまたボルトにワッシャーを通してナットで最後までしめて下さい。

できるだけ速くやって下さい。できたら教えて下さい。始めて下さい。」

時間計測を開始する。

4. 解体・分別（2回目）

教示

「ではまた外して元の場所に戻して下さい。できるだけ速くやって

下さい。できたら教えて下さい。始めて下さい。」

時間計測を開始する。

5. 組み立て（3回目）

6. 解体・分別（3回目）

◇数字の解釈について

関係者17名に実施した平均値 (令和8年4月末)

- 計測したタイムなどは「S ∞ B検査 評価用紙」に記録する。

エクセル版にタイムを入力すると、1個

あたりの平均タイムと、関係者17名の

平均値 (表1) との比較が算出される。

表1. 関係者17名の平均値

	組み立て	分解
1回目	4:32	3:28
2回目	3:52	2:55
3回目	3:42	2:45

- 各工程、1回目から2回目、2回目から

3回目のタイムがどのように変化するか (標準偏差) については、サンプル数が少なく

かなりばらつきがある。

68%の人が

組立1回目から2回目 2秒～78秒速くなる

組立2回目から3回目 7秒遅くなる～29秒速くなる

解体1回目から2回目 2秒～64秒速くなる

解体2回目から3回目 5秒遅くなる～25秒速くなる

つまり . . .

例) 組立1回目から2回目で、タイムが遅くなった

→大抵の人は速くなるはず、何か原因があるか、等と考える

例) 解体1回目から2回目で、タイムが60秒速くなった

→速くはなっているが、他にもたくさんそういう人はいる、等と考える